

A n d y

W a r h o l



『アンディ・ウォーホルのへびのおはなし』  
アンディ・ウォーホル著 野中邦子・訳 河出書房新社 2017



だいぶ涼しく秋らしくなってってきたかな?秋といえば...芸術の秋!

あなたは、アンディ・ウォーホルの絵や作品をみたことがありますか?ゴールド・マリリン Monroe やキャンベルスープ缶、コココーラなど...Tシャツやデザイン、ファッションアイコンとしても最近では用いられることも多いアンディ・ウォーホルの作品。アンディ・ウォーホルという人物を知らなくてもこれらの作品をきつと一度はどこかで見たことある人も多いんじゃないでしょうか?そんなアンディ・ウォーホルが描いたおはなしを今月は紹介します。

この本の絵は、もちろんアンディ・ウォーホルが描いたものですが、いまの絵とずいぶん雰囲気がちがうように思いませんか。いまのウォーホルの絵といえば、マリリン Monroe の絵をみてもわかるように、ポップでビビットな絵が特徴的です。でもこの本はいまのウォーホルの絵より優しくやわらかい感じがします。そう、この絵本は、ウォーホルがまだいまのポップアートをかくまえにファッションイラストレーター、広告アートをやっていたときの作品なのです。この絵本は、トカゲ、へび、ワニなど、ファッション業界向けのレザー商品をあつかっていた会社から、会社のデザインを依頼された際にできた作品です。ウォーホルは会社の看板のデザインからショップバック、包装紙までデザインを手がけた。一匹のへび(ノアという名前だそう)を主人公にしたデザイン、ウォーホルはそのデザインを一連のスライドにして、それを会社で映画のようにして流す予定でしたが、それがなしになってしまい、お蔵入りになってしまいます。

それをいま、絵本として復刻させたものがこの絵本です。たしかに、おしゃれな音楽がBGMでかかっているような、会社のPVをみているようなそんな感じがします。

セブがだいすきで創造性ゆたかなへびは、セブがだいすきで創造性ゆたかなアンディ・ウォーホルによく似ていると思われるかもしれないが、これはまったくの偶然である

そしてさいごにこれは、この本の冒頭の序文なのですが、とても洒落ていてとても気に入ったので、引用しました。そう、この本に登場するへびは、ウォーホルが会社の広告キャラクターとしてうみだしたのですが、このへびはウォーホル自身なのではないかなとおもいます。自分のからだに色をつけ(自分の手で技術で)、クレオパトラやココ・シャネル、グレース王妃たちを美しくはなやかに着飾り、名声を得た。あるときは、舞台衣装に、あるときはベルトに、あるときは靴に、あるときは鞆に...。これはまったくの偶然であると茶化しながらも、ウォーホル自身の人生そのもののような気がしてなりません。

『芸術家たちの素顔! 僕はウォーホル』キャサリン・イングラム文 アンドリュー・レイ絵  
岩崎亜矢監訳/安納令奈翻訳 パインターナショナル 2014

『ウォーホルの芸術 20世紀を映した鏡』宮下規久朗著 光文社新書 2010

ウォーホルは実は足フェチ!?そしてホモで、友人(男)の靴をなめていた!?靴を描いた作品が多いのはそのせい!?有名なマリリン Monroe の絵の口元をみなさんは見たことがありますか?ウォーホルが描いたマリリン Monroe の口元に隠されたウォーホルの思いとは?!もっとウォーホルのことが知りたい人はこちらどうぞ!!

